

ログラム『愛の楽園』を最後に RD を去ることになってしまった。

これにより他の 5th シーズンの演出はジュリエット・メイ、ロブとダグのコンビであるグラント・ネイラーが担当することになった。ちなみにジュリエット・メイの RD 初監督作品は放送順序こそ違おうが 5th シーズン第 5 話『DEMONS AND ANGELS (邦題：悪魔と天使・2つの顔)』である。しかし撮影後のリメイクによりグラント・ネイラーが急遽撮りなおしを行ったため、クレジットには 2 つの名が挙がっている。

1993 年 10 月 7 日 6th シーズン

5th シーズンと 6th シーズンの間にグラント・ネイラー・プロダクションは RD だけでなく他の作品にも携わるほど大きくなった。また、RD も回を重ねるごとに視聴者を増やし続けていた。そのため、BBC は新しい視聴者のためにイントロダクション的な話を要求していた。

これに対しての答えが 6th シーズン第 1 話『PSIRENS (邦題：サイレン 魔の誘惑)』RD を捜し求めてスターバグで宇宙をさ迷うという設定で、コールド・スリープから目覚めたりスターがクライテンからいろいろと説明を受けるというシーンである。

5th シーズンではエド・バイの降板から多くの演出家が演出を行う結果となってしまったが、6th シーズンではアンディ・デ・エモニーが全話を担当している。

クリス・バリーの「にわかガンマン姿」



さらに 6th シーズン第 3 話『GUNMEN OF APOCALYPSE (邦題：にわかガンマン夢中の決闘)』が、1994 年に国際エミー賞の Popular Arts 部門で受賞することになる。

1997 年 1 月 17 日 7th シーズン

6th シーズンの最終話『OUT OF TIME (邦題：自分の未来と大戦争)』のクリフハンガー的ラストから、実に 3 年以上もの期間が空いていよいよ始まることになった 7th シーズン。7th シーズン開始前には RD にとって多くの、そして大きな出来事があった。まず、1994 年にクレイグ・チャールズが婦女暴行罪で告訴され、留置所にまで入れられてしまったのだ。結果的にクレイグは証拠不十分により不起訴となった。

クレイグのスタンダップ・コメディでは、このことでよく留置所のネタが出てくるが、こういうところはやはり根っからのコメディアンというところだろうか。

次に大きな事件はロブ・グラントがグラント・ネイラー・プロダクションを辞めてしまったのだ。彼は RD ばかりでなくもっと他の作品にも携わりたかったそうだ。そしてロブグラントは衛星チャンネルの“SKY ONE”のために『STRANGER』という SF コメディ作品を制作する。この作品は 2000 年の 2 月から 4 月まで放送されていた。主演の 2 人の宇宙人は 1 人がピーター・セン役の Mark Williams で、もう 1 人が 5th シーズン第 2 話『THE INQUISITOR (邦題：地獄の人生審判官)』でインクワイジターを演じた Jack Doherty である。

詳しい内容は以下の URL を見てもらいたい。

<http://www.sky.com/strangerers/>

そしてさらにはクリス・バリーの降板とコチャンスキー役のクロエ・アネットの登場である。

クリス・バリーは別の仕事が入っていたためにクレイグとのスケジュールと合わなくなり、そのままでは両名が 4 エピソード以上出演不可能ということから、スタッフ側は RD にとっての主役はクレイグとの判断からクリス・バリーの降板を決めてしまったのだ。クリスは全編ではないものの、4 エピソードに出演しているが、日本放送時に第 3 話



クロエ・アネット

『OUROBOROS (邦題：めぐりめぐってオレがいる)』のリマーの出演シーンは残念ながらカットされている。

リマーが去ったことにより、ダグ・ネイラーは話を展開させるために別次元から生きているコチャンスキーを連れて来た。しかしコチャンスキー役は過去に彼女を演じていた C.P.Grogan ではなく、クロエ・アネットに変更された。

また、実に 8 年ぶりとなるホリー役としてノーマンが第 8 話『NARARCHY (邦題：ドワーフ号 ミクロの奇跡)』で復帰したのだった。これにはノーマン自身もとても喜んだようだ。

そして復帰のラストは演出家のエド・バイである。彼は復帰後はすべての RD の演出を担当することになった。

最後の事件としては RD は各シーズン全 6 話として製作されていたが、7th シーズンから全 8 話として製作されることになったことだ。

1998 年 10 月 2 日 日本放送開始

記念すべき日本での放送開始が 1998 年 10 月 2 日である。当初、放送を行っていた NHK では視聴率的に問題があれば 3rd シーズンで打ち切りも考えられていたようだ。しかし、結果的にはまだ製作されていない 8th シーズンの放映権をも取得し、10 年にもよる全話を 1 年足らずで放送したのだった。

しかし、残念なことに関東では 4th シーズン第 5 話『DIMENSION JUMP (邦題：異次元から来た男)』と 6th シーズン第 5 話『RIMMERWORLD (邦題：驚異のリマーワールド)』が未放送となってしまった。

しかし、2001 年 8 月に NHK 教育にて再放送、2003 年 1 月に日本語版 DVD が発売されたことにより、日本でも全話を視聴することが可能となった。

1999 年 2 月 18 日 8th シーズン

7th シーズン・ラストでついに RD 号に辿り着いた一行だが、RD 号には死んだはずのクルーがナノ・ボットの復元能力で全員生き返っていた。今までの展開を大きく覆す展開だが、これによりリマーが人間として再登場し、またホリスター船長など懐かしい旧キャストまで登場することになった。

8th シーズンではクリス・バリーの復帰とともに、作品の大きな様変わりも注目すべきだろう。特に CGI の多様さは今までの RD に見られない点である。それがどのように作用するかは別として…

そして衝撃のクライマックス。またしても RD 号が崩壊し、リマーが死神に迎え入れられる・・・しかしリマーは死神の股間に蹴りを入れて逃げてしまう。8th シーズンに違和感を感じていた方もこのリマーの生き様には納得いったと思える。

また、日本でも 1999 年 9 月 17 日から 8th シーズンが放送され、1999 年 11 月 5 日にシリーズ 8 最終話が無事に放送された。

20XX 年 XX 月 XX 日 映画版上映

2007 年、プレ・プロダクションが開始されたとか、オリジナル・キャストではなくなるなど色々と情報が出てはいるものの、未だに撮影はされていない。銀河ヒッチハイク・ガイドが映画化に 20 年かかったことを考えると、はたして RD 映画版は何年に公開されるのだろうか？



映画化はどうなる？